

防虫科學

季刊

第15號 -IV

原 著

32. 高等植物の殺虫性に關する研究. 3.
山口一孝, 庄司初枝, 鈴木 猛…………… 195
33. BHC の合成に關する研究. 5.
龜崎忠夫, 笠原三千世…………… 201
34. 蚊取線香の檢定について.
長澤純夫, 住田史朗, 平位省三…………… 206
35. 苗代の昆虫群聚と其數量に及ぼす颱風の影響.
松澤 寛…………… 218
36. 殺虫劑の連合作用に關する研究. 3.
中山弘美…………… 223

綜 説

37. 防虫菊劑の毒作用機構. 2.
酒井 清六…………… 230
- 第1號—第14號 總目次, 著者名索引, 歐文目次, 歐文著者名索引…………… 239
- 第15號 總目次, 歐文總目次…………… 261

財團法人防虫科學研究所

京 都 大 學 内

昭和25年12月

BOTYU-KAGAKU
“SCIENTIFIC INSECT CONTROL”

Bulletin of the Institute of Insect Control

Editor SANKICHI TAKEI *Associate Editor* SYUNRO UTIDA

Editorial Board

MINORU OHNO, MINORU NAKAZIMA, TAKENOSUKE TAKANO,
TATURO KONO, SUMIO NAGASAWA, MASAYUKI HAMADA.

CONTENTS

Originals

32. Studies on the Insecticidal Action of Japanese Plant. 3.
Kazutaka YAMAGUCHI, Hatue SHOJI & Takeshi SUZUKI. 195
33. Studies on the Synthesis of BHC. 5.
Tadao KAMESAKI & Michiyo KASAHARA 201
34. On the inspection of mosquitocide incence.
Sumio NAGASAWA, Shiro SUMITA & Shozo HIRAI 206
35. On the Insect Association in the Rice Plant Nersery and the Effect of Typhoon
upon the Quantity of Them
Hiroshi MATSUZAWA 218
36. Studies on the Joint Action in Insecticides. 3.
Hiromi NAKAYAMA 223

Review

37. Mechanism of Intoxication of Pyrethrum Insecticides. 2.
Seiroku SAKAI 230
- Table of Contents and Author Index of the "Botyu-Kagaku" Number 1-14 239
- Table of Contents and Author Index of the "Botyu-Kagaku" Number 15 261

Published by
THE INSTITUTE OF INSECT CONTROL
Kyoto University
Kyoto, Japan

J. Econ. Ent. 27, 1101 (1934) (73) Szent-Györgyi, A.: Nature, 128, 761 (1931) (74) Tattersfield, F. & R. P. Hobson: J. Agr. Sci. 19, 433 (1929) (75) Tobias, J. M. & J. J. Kollar: Biol. Bull. 91, 247-55 (1946) (76) Ton King, H. D.: J. E. African Med, 13, 7 (1936) (77) 浦本政三郎: 農試報告 8, 121-34 (1932) (78) Weed, A.: Soap & Sanit. Chem. 19, 117, 119, 121 (1943) (79) Wigglesworth, V. B.: Proc.

Roy. Ent. Soc. [Lond.], A. 16, 11-4 (1941) (80) Wilcoxon, F. & A. Hartzell: Contr. Boyce Thomp. Inst. 3, 1-12 (1931) (81) — & —: ibid. 5, 115-27 (1933) (82) Yamamoto, R.: J. Tokyo chem. Soc. 40, 126-47 (1919) (83) 山崎輝男 & 石井敏夫: 応用昆虫 5, 155-68 (1950) (84) Yeager, J. F. & R. S. Swain: Iowa J. Sci. 8, 519-22 (1934) (85) Zeigler, W. H.: J. Amer. Pharm. Assoc. 12, 19-26 (1923).

投 稿 規 定

編 集 者

武居三吉, 内田俊郎, 大野 稔, 中島 稔
高野武之助, 河野達郎, 長沢純夫, 濱田昌之

内 規

1. 防虫科学に関する研究報文なれば誰でも投稿出来る。但し原稿の取捨は編集会議で決める。又原稿中の字句については加除修正を行うことがある。原稿は本誌規定の原稿用紙を用いること。
2. 報文は邦文又は欧文とし邦文には欧文の又欧文には邦文の要約を添える。欧文はタイプライター使用の事。表題, 著者名及び所属研究機関名等は邦文欧文両者を併記する事。
3. 邦文は平かな, 新かな使いとし, 欧語音訳には片かなを用いる。但し物質名, 人名等は欧文のまゝとする。写真, 表及び図の説明は欧文とすること。図は白紙又は青線方眼紙に丁寧に墨書し原稿とは別紙とすること。
4. 動植物の学名の下には — を附ける (イタリック体となる)。和名は片仮名をもちいる。数字はすべてアラビア数字を用い, 数量の単位はメートル法による。単位及び術語の略字等は次の例による。m(メートル), cm(センチメートル), mm(ミリメートル), μ (ミクロン), m^2 (平方メートル), m^3 (立方メートル), cc (立方センチメートル), L(リットル), g(グラム), kg(キログラム), mg(ミリグラム), °(攝氏度), % (パーセント), pH(水素イオン濃度), bp(沸騰点), fp(凝固点), mp(融点), cal (カロリー), Cal (大カロリー), MW (分子量), V (ボルト), kV (キロボルト), A (アンペア), mA (ミリアンペア), W (ワット), Atm (気圧), N (規定

- トル), g(グラム), kg(キログラム), mg(ミリグラム), °(攝氏度), % (パーセント), pH(水素イオン濃度), bp(沸騰点), fp(凝固点), mp(融点), cal (カロリー), Cal (大カロリー), MW (分子量), V (ボルト), kV (キロボルト), A (アンペア), mA (ミリアンペア), W (ワット), Atm (気圧), N (規定
5. 句読点, カッコには1割を与える。ハイフンは区割の罫線の上に明瞭に書くこと。文献には著者名, 雑誌名(書名), 巻数, 頁数, 年号の順に記し, 巻数には~~~~ (ゴチック体)の下線をつけること。
(1) J. Cristol: J. Am. Chem. Soc., 69, 338 (1947)
本文中の引用文献番号はカッコをつけて肩に小さく書く, 文献は報文の最後に通し番号の順に列記する。邦文雑誌名は日本化学総誌, 欧文雑誌名はChemical Abstracts; Biological Abstracts規定の略名に従う。
6. 校正は初校に限り著者が行うことを原則とする。
7. 別刷は 50 部贈呈する。それ以上の希望数に対しては実費を申受く。
8. 原稿の送付には送状を附し, 宛送年月日, 連絡先, 原稿枚数, 写真及図表数別刷希望数等を記入する。原稿校正の郵送は書留とし, 投稿その他の連絡は下記にする。

京都市左京局区内北白川, 京都大学農学部
昆虫学研究室 内田俊郎

昭和 25 年 12 月 29 日 印刷
昭和 25 年 12 月 30 日 發行

防 虫 科 学 第 15 號 - IV 定 價 5 95.00

主 幹 武 居 三 吉
京都市左京区北白川 京都大学農学部
編 集 者 内 田 俊 郎
發 行 者 京都市左京区北白川 京都大学農学部

發行所 財団法人 防 虫 科 学 研 究 所
京都市左京區吉田町 京都大學内
(振替口座・京都 5899)
印刷者 石 井 喜 太 郎
印刷所 大 賢 印 刷 株 式 會 社
京都市東九條山王町三八

訪蟲科學

第 1 號 — 第 14 號

總	目	次				
著	者	名	索	引		
歐	文	總	目	次		
歐	文	著	者	名	索	引

訪蟲科學

第 15 號

總 目 次
歐 · 文 總 目 次